

平成29年度の学校評価及び学校関係者評価結果

ア 自己評価結果

| 重点目標 | | <ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献のために未知なるモノを創造する力を身につけ、良識ある社会人としてのモラルを実践できる総合力を育成する。 ・課題発見力と探究力の育成。 ・高度な知識の獲得、その活用方法の習得、活用する心の滋養、活用する行動力の育成。 | |
|--------|--|--|---|
| 項目(担当) | 重点目標 | 具体的方策 | 評価結果と課題 |
| 教務 | 教務上の業務の一層の効率化と改善を図るとともに、次期学習指導要領に向けた授業改善への検討を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・関係部署との情報共有と連携を図り、早期の問題発見と対応策の提示に努め、業務の効率化を図る。 ・各教科に対し基本の定着、知識の活用、相互に対話のある授業作りへ向けた取組を促す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導要録作成・成績処理等について、問題なく円滑に進めることができた。 ・新教育課程に向け、教科主任会等を通じ、授業改善に向けた情報共有の場を作り、改善への取組みを進める事ができた。 ・考査の大切さを生徒に認識させるために、学年会等と意見交換を行うことができた。前向きな受査や、欠席者の減少に向け、欠席時の手続きについて、改善する方向で検討することができた。 |
| 総務 | 奨学金に関する変化の動向に適切に対応し、来年度以降に向け、新設された給付型奨学金の手続きの流れを作る。 | 学年会との連携を密にし、変更点に関する情報を共有し、確実に生徒に伝わるようにする。 | 新しく募集要項が届いた給付型の奨学金に関して、該当学年会と連絡を密にし、希望生徒の出願手続き、事後指導を行った。給付型奨学金が増えた初年度としては、大きな混乱なく対応できたと思うが、来年度以降希望する生徒が増えたときにも適切な対応ができる体制を構築する必要がある。 |
| 生徒指導 | 「礼節を重んぜよ」を基盤とした行動の実践と、明和生としての帰属意識を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日々の遅刻指導や身だしなみ指導を通して、「挨拶、身だしなみ、言葉遣い」など、節度ある行動がとれるようにする。 ・情報モラルに関して、具体的な問題点を理解し、良識ある行動がとれるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の校門立ち番での声掛けにおいて、予鈴では校内にいる、身だしなみを整えて登校する、気持ちよく挨拶をすることを継続した。今後は、遅刻者数を減少させる方策を考えていきたい。 ・情報モラルに関しては、日頃から学校全体で重要性を伝えていく必要がある。冬季休業中の心得の裏面に、情報モラルに関する資料を掲載した。来年度以降、安全教育などで全体講話の形式でも伝えていきたい。 |
| 進路 | 職員間で進路指導に対する共通認識を持ち、データに基づいた組織的で継続性のある進路指導を展開し、生徒の進路実現を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実力考査のデータの有効活用を図るため、実力考査のあり方を検討し、具体案を提示する。 ・キャリア教育の観点から大学ガイダンス等をより充実させ、1、2年生から自らの課題としての進路意識の高揚を図る。 ・各学年で行われる進路情報交換会の内容の充実を図り、最後まで第一志望を大切にす進路指導を展開する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実力考査のあり方について教科主任会に改善案を提示し、来年度からの変更案を決定できた。来年度は実施状況の検証を行う。 ・大学ガイダンス、名大文系4学部ガイダンス、東大ガイダンスにおいて、大学卒業後の進路を含んだ内容に深化させた。 ・進路情報交換会の実施日を3年と1、2年を分けて実施した。また、1、2年の実施日を考査中から考査前に移した。 |
| 保健相談 | 生徒自らの手で美しく安全な学校を作るという行為を通して、社会を良くしていく心とする心を育む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自主的清掃・点検活動を通し、責任感を養う。 ・防災訓練等の計画立案とその実施に生徒を参画させ、意識の向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全委員会、保健委員会を定期的に関き、教室の安全、清掃点検を実施している。今後はさらに、落ちていたゴミを自ら拾う姿勢を身につけさせたい。 ・防災関係では、3年間の基本サイクルの計画が完成し、その実施を通して生徒の意識向上につながっている。 |
| 生徒会 | 自主自立の精神に基づき、全校生徒が主体的に活動できるような企画、運営を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各行事の持つ意味についてあらためて考え、目的を意識して企画、運営する。 ・東北被災地関連の企画を継続して行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・種別委員会、執行委員会、生徒議会へと続く会議と、行事後の反省、引継ぎがうまく機能し、各行事をスムーズに運営できた。生徒会執行部の意識が高く、全ての行事に大きく関わり、運営をサポートすることができた。行事後の反省会に時間がかかりすぎ、生徒の負担になっている点を改善させたい。 ・6年連続で東北物産展を実施し、好評であった。岩手県と岩手県の業者より感謝の言葉をいただいた。福島県立安積高校との交流を続けており、生徒会執行部より現地を訪れたいとの要望があったが今年度は実施できなかった。来年度以降の課題としたい。 |
| 図書情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒および教員の図書館利用を活性化させる。 ・ネットワーク利用の推進と個人情報管理の強化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒図書部の活動を活性化させ、図書館報の新たな紙面作りを考えさせる。 ・時宜にかなったテーマ本の展示を行う。 ・ネットワーク利用上の留意事項について専任はもとより非常勤講師にも配布し個人情報の管理の徹底を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度(12月まで)の貸出冊数は1186冊で、昨年より若干増加できた。また今年から始まった課題探究の授業を図書館で15時間行った。各教科と連絡を密にし、本の利用をさらに活性化させたい。 ・申請に基づきUSBやパソコンを講師も利用でき利便性が向上した。なお、個人情報の管理状況については引き続き徹底をうながしていきたい。 |
| 研究 | 課題研究の具体的な | 問題意識を持つ場面、知識と | 課題研究を通して「探究の過程」を経験させることができ、 |

| | | | |
|--------|---|---|---|
| 開発 | 指導法と評価法を確立をする。 | 思考を繰り返す場面、コミュニケーションを取る場面を意識した指導展開法を考案する。また、これらの場面での活動を評価するルーブリック表を作成し、より客観的な評価法を確立する。 | 探究心を持つことの重要性を、ある程度伝えることができた。さらに探究活動の質的向上を目指し、「課題探究」の指導法と評価法の改善に取り組んでいきたい。 |
| 音楽 | 感性豊かな人間力、演奏力の向上とともに、自身の考えや思いを言葉でも表現できる力を養う。 | ・演奏会や実技試験を通して、各々の技術の向上を目指す。 ・音楽的な感性を養うだけでなく、読書や小論文など、言葉に対する感性も育む。 | ・国内外のコンクールへの参加、そして顕著な成績を挙げ少しずつ成果を出しているが、さらに多くの生徒の意識向上が望まれる。 ・課題研究と発表を通して、研究したことを的確に伝えることの難しさを実感した。今後も言葉と表現について更に意識を持たせたい。 |
| 1年 | 基本的な生活習慣を整え、基礎的な学力を身につけ、卒業後の進路を見据えて自己を律することができる生徒に育てる。 | 時間や期限を守る、授業を重視して学習活動に取り組む、清掃をしっかりと行う、という高校生としての基本となる姿勢を身につけさせる指導を行う。 | 生徒は概ね基本的な生活習慣を身につけ、学習や部活動・生徒会活動に積極的に取り組むことができた。 一方で、学習時間が十分に確保できない生徒や高校生活に適応できない生徒がいるのも事実であり、これらの生徒の指導を継続し、中核学年としてふさわしい生徒に育てるのが今後の課題である。 |
| 2年 | 学校の中核をなす学年として、何事にも積極的、主体的に取り組ませるとともに、全体を考えて行動できる集団を目指す。 | 学習活動、特別活動、課外活動に積極的に取り組ませつつ、修学旅行など全体での校外活動において適切な行動がとれるよう意識を高める。 | 修学旅行や学校行事などに委員を中心として主体的に取り組むことができた。部活動においても中心学年として活動し、成長が見られた。来年度は進路意識を高く持たせながらも、授業を大切にしよう指導していきたい。 |
| 3年 | 生徒の進路実現を図る。 | 生徒の進路希望と学習状況の情報を学年会で共有し、本校の生徒の在り方や特性を十分考慮した適切な進路指導と学習指導を積極的に展開する。 | 各教科の綿密な指導の結果、例年に劣らぬ状態で受験本番を迎えることができた。生徒の望む進路実現へ向け、進路指導部と連携し、進路情報交換会等を通じて、学習状況を情報共有し、適切な進路指導ができた。 行事・部活動等、学校生活の中で、生徒から3年生としての自覚を持って取り組む姿勢を引き出すことができた。 |
| いじめ防止等 | いじめの未然防止、早期発見を図る。 | 生徒の不安や悩みを把握するため、「いじめ・迷惑行為調査」、個人面談、健康観察等を実施する。 | 学年会・生徒指導部・保健相談部の連携の下、積極的に情報収集に努め、目標を達成することができた。「いじめ・迷惑行為調査」のみを過信せず、今後も日常の観察や面談を大事にしたい。 |
| 総合評価 | | ・職員の協働の場面が増え、連携が深まった。落ちついた学習環境を整えながら、目標とするさまざまな力を生徒たちに身に付けさせることができた。 ・今年度より始まった第Ⅱ期1年次のSSH事業を活用し、学校の活性化を図ることができた。2年生の学校設定科目「課題探究」を教育活動の中心に位置づけるカリキュラム・マネジメントによって、本校の目指す方向性が明らかになった。 | |

イ 学校関係者評価結果等

| | |
|-----------------------------|---|
| 学校関係者評価を実施した主な評価項目 | ・社会貢献のために未知なるモノを創造する力を身につけさせ、良識ある社会人としてのモラルを実践できる総合力を育成することができたか。 ・新しい学校設定科目「課題探究」を始めとする学習活動、部活動や生徒会行事等の特別活動を通して課題発見力と探究力を育成することができたか。 ・獲得した高度な知識を活用する心や行動力を育てることができたか。 |
| 自己評価結果について | ・活動だけでなくスポーツ・文化での業績、さらに品性なども含めて人間としての総合力を伸ばすことができています。 ・SSHが本校の軸になっていることがよくわかった。 |
| 今後の改善方策について | ・SSHを理系だけのものとせず、本校のために大いに活用し、文理の枠を超えた教育を目指してほしい。 |
| その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望） | ・世界的な視野をもつ生徒を育ててほしい。本校卒業後すぐに外国の大学に進むような生徒が増えるといい。 ・生徒たちのためにOBなどの外部人材をもっと活用するといい。 ・センター試験後に出願校で悩む生徒がいたようだ。どんな人生を歩みたいのか早い段階から指導していく必要がある。 |
| 学校関係者評価委員会の構成及び評価時期 | ・構成……学校評議員4名及びPTA会長・副会長 ・評価時期……3月1日 |